

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型デイサービスひかり		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 7日 ~ 2026年 2月 28日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	5 (回答者数)	4
○従業者評価実施期間	2026年 3月 1日 ~ 2026年 3月 15日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	12 (回答者数)	12
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 8日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訓練室は広く、子どもたちが横になっても広く使えるようにしている。また、柔らかい素材のマットも敷き、安全面に考慮している。車椅子使用の児童も車椅子から降りて、座位や横になって活動ができる広さである。	災害にも備え、子どもたちが横になって過ごす場所には柵などの配置は少なくしている。また、奥の壁側には全面鏡になっており、職員の後ろにいる子どもの状況も把握できるようにしている。マットも柔らかい素材で転倒への安全面を考慮している。	動けない子どもたちが横になっていると、動ける子どもたちが動く範囲が狭くなるため、動ける子どもたちも伸び伸びと動けるスペースの確保を検討する。
2	保護者との連絡ツールとして、連絡アプリとLINEアカウントを併用している。連絡アプリでは、保護者と事業所間での連絡帳のやり取りの他、活動の記録も見れるようにしている。また、LINEアカウントでは、常に職員と保護者が連絡が取れる状況にしている。	連絡アプリから、LINEアカウントにもつながるようになっており、連絡が取りやすいように工夫している。また、LINEアカウントでは営業時間外でも保護者が連絡したい時に連絡が取れるよう24時間対応できるようにしている。緊急時は都度対応し、緊急時以外は朝7時～夜10時の間に返信し連絡できるようにしている。	連絡アプリでの通所記録の見方がわからない保護者が数名おり、連絡アプリの利用方法の説明を再度行い、利用の充実を図る。
3	身体障害児が多いため、残存機能を活かして楽しめる活動を提供し、また医療的ケア児で自由に動くことのできる児童もおり、どの子も楽しめる活動を提供している。	理学療法士による手作りの道具を作り、道具を使って残存機能を活かして楽しめるレクリエーション活動を提供している。道具を使うことで、すべての子どもたちが楽しめている。	子どもたちの状況にあわせて道具を工夫し、みんなで楽しめる活動を考案しながら、すべての子どもたちが楽しめる工夫を続けていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	送迎などの関係で、職員全体での会議や研修への参加が難しい。	朝の打ち合わせや支援終了後の振り返りなども送迎があるため全員での参加が難しい。また、非常勤も週1～2回勤務の職員もおり、なかなか揃わない。	研修に関しては、e-ラーニングの導入を実施。会議や打ち合わせ、振り返りなどに関しては、職員間のグループLINEを活用し、LINEのノート機能に入力し職員全体で把握できるよう工夫する。
2	地域住民や地域の子どもたちとの交流がない。	地域住民に知ってもらう機会が少ない。	防災さんぽなどを取り入れ、周辺を散歩する機会を増やし、地域住民の方々知ってもらうきっかけ作りをしていく。
3			